

教育長	部長	課長	係長	係

## 第 3 回 会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和2年6月24日	開催場所	中央公民館 14時00分～16時00分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、薫田八郎、戸谷田知成、三宅隆弘、橘玲子、 ★三浦啓作、依田由加、永井淳子、★稲垣英雄、藤澤貞夫、村石正枝、川上陽子、David Hunt、岡松良典 (★は欠席)	
事務局	教育長、加塚部長、中野課長、近藤課長補佐、竹内担当係長	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>教育長：みなさん、こんにちは。新型コロナ感染対策により、新しい生活様式が求められ、3密をさけて、窓を開けております。本日は、ご多用の中、第3回の知立市文化芸術推進会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>日頃は、市民の文化芸術の高揚にご尽力していただいていることに厚く感謝申し上げます。芸術や芸能様々な文化の鑑賞や活動は、心が豊かになり、将来の希望となり、生きがいになりますので、今後とも文化芸術の高揚のためによりしくお願いします。市政50周年の様々な企画がされていましたが、前に進まない状況で、今後の検討をしているところです。</p> <p>本日は、知立市の文化芸術推進基本計画の策定が議題となっています。忌憚のない、ご意見をいただき、計画をより良いものにしてまいりたいと考えております。よろしくお祈いします。</p> <p>会 長：コロナの関係でみなさんご苦労しているところと思います。各文化施設でも、公演が中止になったり、換気を良くして定員を減らしたりして公演を再開しています。アーティストは、収入がなくなって大変な状況にあります。そういう中で、今回は、お考えのことがたくさんあるかと思います。そういうこともふまえて、これからの知立市の文化芸術のあり方についてご意見をいただきたいと思います。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 計画の骨子案について</p> <p>会 長：それでは議事(1)知立市文化芸術推進基本計画について事務局から説明をお願いします。</p>		

(事務局：資料1, 2に基づき、計画について説明)

会 長：ご意見・ご質問はありますか。

薫 田：文化庁の文化芸術活動のデータで、国民の文化に対する意識をみると、全員が文化芸術に関心にあるわけではなく、関心のある分野も非常に多様になっています。それをふまえて、全国と知立市のアンケート調査結果を比べると、知立市は全国より関心が高いという印象があります。文楽など伝統芸能は200年の歴史があり、市民の文化活動については文化協会ができて50年となっています。文化協会発足の当時は、地域に密着した草野の根の文化活動をしてきましたが、中央公民館やパティオができて、レベルアップをしてみてもうようにしようと少しフェーズが変わってきています。今は、昔より個人個人というようにフェーズが変わってきています。今後、どうなっていくか、また、知立で何をしていくべきかということがあります。知立市はコンパクトなので、みなさんが納得できれば、できます。いいことは続けていって、少数派の人にも機会を提供していくことが必要と思います。

また、リリオ、パティオ、文化協会、生涯学習課のネットワークで連携できないかと思えます。例えば、講座等の修了者を組織化し、活動を続けていくしくみができていくとよいと思えます。

アンケートでは、きっかけがないという回答もみられ、どう取り組んでいくか、しくみづくりをする必要があります。それぞれが敷居を下げる必要がありますし、遊びのイベントの中でちょっとしたコンサートをして、そこから音楽や演劇やダンスに入っていくきっかけづくりなどが具体例として入っているとよいと思えます。

高齢化も進んでおり、子どもとの交流・連携もできないかと思えます。芸術の分野、年齢、少数派などマトリックスを作って、弱いところを分担して取り組めるとよいと思えます。

会 長：いろいろな人が関連しますので、ネットワークをどうするかが大事ということでしょうか。

戸谷田：アンケートは受け手側の集約で、何が求められるかがある程度浮き彫りになったと思えます。図書館でライブラリーコンサート、草の根フェスティバルをホールで開催するなど、現状で進みつつある中で、できていないことを現状把握しつつ、10年の計画をする必要があります。10年たつと新たな芸術分野も立ち上がってくる可能性があります。まずは現状把握をしっかりできるとよいと思えます。新しい生活様式について、劇場の現場ではいろいろな制限がかかった中で、悩みながら実施しています。舞台芸術の表現として生の舞台の魅力があり、どのように取り組んでいったらよいか、調査研究して盛り込んでいくとよいと思えます。

宇 納：パティオ池鯉鮒では文化活動の情報発信はしていると思えます。文化会館に行く人たちは情報が入りますが、行かない人は良く知らないという現状があります。また、広報ちりゅうぐらいという人がいます。パティオ、市役所、駅前の観光事務所、インターネットでの検索も含めて、情報を体系づけた情報発信センターをつくってはと思います。情報が流れないところがあるのではないかと思うからです。もっと知ってもらうために、例えば、公民館だけ利用する人も、パティオを利用している人と同じ情報が得られる環境をつくるということです。

人間性の育成、感性などを子どもたちに、とありますが、保護者の要望も入っていると思

います。文化はいろいろなものが入っていて、例えばまちづくりについて、その中身がはっきりとしていないと思います。まちの美観が整っていると、観光になりますし文化レベルが高くなります。パティオの裏に川があり、桜もありますが認知度も低く、親水性も低い状況です。そういうところの環境整備、美観がここには抜けているのではないかと思います。ここに掲載しないのであれば、どこに載せるかを教えてください。

事務局：確認させてください。文化会館の裏手については、認知度が低いと思われ、情報発信が必要と思います。

会長：パティオの設計において、裏の川はかなり議論されていました。その資料を、もう1度ご確認ください。

国の基本法に、まちづくりは入っていません。武豊町のように科学技術産業も取り組んでいるケースもあり、国の基本法の対象だけでなく、広げていく可能性があることを書いておいた方がよいと思います。特にまちづくりはデザインなども入ってきます。

ハント：コンサートなどをYouTubeでみるのも1つの方法です。普通に戻ったときには、登場人物のことや、練習の風景などを流すことができ、パティオの近くの川など、市外の人も含めて紹介できるのではないかと思います。

戸谷田：ロビーコンサートができなくなり、代わりにパティオのホームページに演奏をアップして紹介しました。地域のアーティストの紹介にも活用できないか検討しています。これからは、Webでの発信は避けられないという意識で取り組んでいます。得意な職員が、時間を作りながら行っている状況です。

会長：そういうところに新しい展開ができると思います。予算をつけることができると、ずいぶん違うのではないかと思います。

薫田：文化協会でドローンを使える人がいて、写真をアップしている人がいます。

会長：そういうことができるしくみをつくって、いろいろな人が参加できるといいですね。

戸谷田：知立のYouTube（ちりゅうTUBE）をつくると面白いと思います。

会長：クラウドファンディングが話題になっており、それと合わせて新しい展開を仕組みとして立ち上げると、面白い展開になるのではないかと思います。

永井：障害者の団体で、昨年度の2月にイベントをしました。障害のある人は舞台等に立ちたくても立てない人がいます。そのため、各団体をまわってビデオ撮影をして、その映像をスクリーンに映すことをしました。舞台にあがれなくても画面に出るだけでも当事者には喜びがあります。ドローンを使って、パティオ上空から映そうということになって、できあがったものをみて感動しました。こんな新しいいろいろなことができる世の中になったと感じました。50年前を考えると、その当時で考えが及ばないことがたくさんあります。小学校1年生か2年生の遠足は無量壽寺でした。幼いときの記憶は鮮明に残っているので、知立はどういうまちかを体験することが重要と思います。学校ではいかがでしょうか。

教育長：まち探検をしたり、歴史や産業などみる機会をつくっています。

永井：知立ならではのものに1回でも触れる環境があるとよいと思います。50年前は、パティオも中央公民館もありませんでしたが、歳末の買い物をして福引で当たると、知立小学校の体育館に芸人を呼んだイベントに参加できました。私たちの頃は、そういうものが楽しみでした。子どもは素直に吸収できます。ハンデを持つ人も純粋に文化芸術に関わりたいと思っており、自然体にできないかと思っています。

まず知ることから始めるということで、キャッチフレーズでは、知立の「知」を入れるのもよいかと思います。

会長：行きたいけど行けない人がいるということをおもひ考へてこなかつたと思ひます。5Gなどが進んでくると、遠くに離れた人が同じように関われるようになると思ひます。例えば、パティオの舞台に映像をリアルタイムで流して、出演するということが出来ます。そういう専門的なスタッフが必要な時代になるのではないかと思ひます。

永井：映像を制作してくれた方は、パティオさんから紹介していただいて経験することが出来ました。

会長：きっかけを作る仕事は重要ですね。ただし、なかなかやれるところがないと思ひます。

薫田：文化活動ファシリティー課、相談室など敷居を下げた窓口などが考えられないでしょうか。計画では、個人個人のやりがい、居場所づくりに関する言葉があるとよいと思ひます。日常生活の中で自分の生きがいを求め、いっしょにやりながら楽しんで居場所になっています。居場所づくりが活動の原点です。

パティオの近くに桜と川があり、散歩に来たらパティオで何かやっているという人の流れができることも意図して、2004年と2005年に市民会議で発案して、桜や四季桜を植樹しました。

村石：知立団地でみらいジュニアというクラブ活動をしています。外国人の親子を対象に、折り紙、歌、季節のものを体験してもらっています。日本、知立を好きになってほしいという思いがあります。知立団地をまわると、異国情緒を感じます。みんなで山車をつくって、お披露目の機会があつて、パティオなどを練り歩くことができればなどと思ひます。知立は松並木があり、知立まつりがあり、外国の人にそういう感動が伝わるといういつも思ひて、少しでも何かのきっかけになるとよいと思ひ提案しています。

戸谷田：サンバチームがあつたり、昭和地区ならではの山車、サンバソウ（三番叟）をするなど、いろいろ考えられます。

村石：子どもをはじめお祭りは大好きではないかと思ひます。外国籍の方も日本が好きで家を建てて人も出てきています。知立市民という意味では、国は関係なく、アピールできるものがあるとよいと思ひます。

永井：外国人も、障害者もとみんな市民です。文楽・浄瑠璃は後継者がいないと聞きますが、外国籍の人が後継者になることも考えられます。どんな人でも興味を持てば、携わることができるようになればと思ひます。学校も興味を持つきっかけになります。

教育長：知立の中学校では卒業するまでに、必ず1回文楽を見えています。また、保存会の方が小学校で文楽体験をしています。

永井：みる、さわってみる、動かしてみるという経験があると大きく違ってくると思ひます。知立まつりが一時衰退したことがありましたが、市民が寄付をして山車の補修をしたことを覚えています。クラウド活用したり、とりかかりやすいことから始めるのも1つの方法かと思ひます。

ハント：知立南中学校区では山車がないので、知立まつりの知名度はそれほど高くありません。みてきてほしいし、そのために情報が重要です。

橘：南中学区では、確かに知立まつりを見に行つたことがない人が多いと思ひます。知立は歴史が深いので、かきつばたまつり、知立まつり、花しょうぶまつり、業平の像などがあつ

て、ロビーコンサートや松並木のイベントもあります。春のコース、子どもたちに向けた夏のコースなど、系統立ててはいかがでしょうか。例えば、文楽について資料館で見て、図書館で確認して、パティオで動かしてみるなど、そういうイベントができないかと思えます。また、外国籍の市民も同じように文化芸術を体験できることが将来のことを考えると、重要だと思えます。

会 長：民俗資料館で知立検定を作って、実施してみるなど、しかけが必要と思えます。

岡 松：きっかけという言葉がキーワードであがっています、情報発信が重要です。市の広報がダントツに見られており、その活用が重要と思えます。インターネットは興味がある人しかみません。情報をもっと、広く届くとよいと思えます。インターネットと広報が効果的・効率的に融合し、QRコードを入れたりしてはいかがでしょうか。

個人的な意見ですが、パティオの川は大好きな散歩コースです。でも周知不足です。

会 長：広報に載せるのは、すごく大変ではありませんか。

戸谷田：パティオの情報は、結構載せてもらえます。

永 井：広報に、個人が行うことを載せることは難しいところがあります。そのハードルを下げないと個人は利用できません。若い世代は新聞を取りませんが、広報は無料配布なので見ていますので、もっと活用できるとよいと思えます。

会 長：広報にプライベートなものを載せるのは難しいので、パティオ池鯉鮒の中に入れて、そこを經由して広報に繋がるようにするのはどうか。また、コーナーによっては載せられるかもしれないので、ページ数を含めて考えられないでしょうか。

事務局：11月から月1回になるので、掲載料が減ることが予想されます。

戸谷田：Webの活用も考えてはいかがでしょうか。

藤 澤：Webで海外のクラシック音楽やバレエのライブ配信がみられるようになって、この期間にいろいろ視聴しました。中学生、高校生の子どもがいて、YouTubeをすごくみています。これを活用しない手はないと思えます。SNSは、市外の人に活動をアピールできます。アーティストへの支援については、過去の録画録音を寄付して支援金を提供するなどの動きもみられます。

会 長：映像をうまく流していくことを考える必要がありますね。

戸谷田：パティオでは、登録アーティストに配信をお願いできないかと考えています。

藤 澤：高校生・大学生・20歳代など、幅広い世代に文化を楽しんでほしいと思えます。

会 長：この世代が、自発的にきてもらえる機会をつくるということですね。

会 長：P14に文化施設の運営団体等の〇を1つ作った方がよいでしょう。そして、市内の文化関連施設の役割を明確にするため、ミッションを掲載してはいかがでしょうか。ないところは、計画をふまえて作成してください。パティオなど、ミッションをPRしきれていない面があります。

宇 納：文化課とパティオの情報交換はしていますか。

戸谷田：月に1回の定例会議をはじめ、情報交換・情報共有を随時しています。理事に教育部長も入っています。

会 長：知立市はコンパクトなので、風通しがいい感じがします。それでは、議題1について、よろしいでしょうか。

## (2) その他

事務局：次回の委員会は、後日、ご連絡します。本日の計画の枠組みも含めて、ご意見がございましたら早い段階で事務局までお願いします。

宇 納：この計画では、事業計画の策定を想定していますか。

事務局：事業例をあげていくので、次回、ご意見をお願いします。

宇 納：評価について、どのようにしますか、何もないと案を作るだけでお終いになってしまいがちです。指標づくりなども検討してください。

会 長：重点施策について、方針を記載するのか、詳細な5年計画を示すのかというのでだいぶ違います。また、評価を考えると相当大変な作業になり、専門的な方の参加も必要かもしれません。それらを含めて、将来の展開が見えるようにするとよいと思います。まずは、具体化するための手順について考える方法を検討してください。

## 4. 閉会

事務局：それでは、本日はこれで終了します。